

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Association between maternal multimorbidity and preterm birth, low birth weight, and small for gestational age: a prospective birth cohort study from the Japan Environment Children's Study

和文タイトル: 母体の多疾患併存(Multimorbidity)と早産、低出生体重児、Small for gestational age との関連

ユニットセンター(UC)等名: 北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名: 旭川サブユニットセンター

発表雑誌名: BMJ Open

年: 2023 DOI: 10.1136/bmjopen-2022-069281

筆頭著者名: 中西 研太郎

所属 UC 名: 北海道ユニットセンター

目的:

多疾患併存(Multimorbidity)とは、一人の患者において複数の慢性疾患が存在する状態のことであるが、妊婦における多疾患併存についての研究は乏しい。本研究は、母親の多疾患併存が分娩週数および児の出生体重に及ぼす影響について調査することを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加した 86,885 人の単胎妊婦を対象とした。研究対象妊婦を慢性疾患のない群、1つの慢性疾患をもつ群、2つ以上の慢性疾患をもつ(多疾患併存)群の3群に分類した。慢性疾患のない群を対照として、早産、低出生体重児、Small for gestational age (SGA) (在胎期間相当の体重よりも小さく生まれた児)の頻度との関連について検討した。

結果:

研究対象者のうち 40.2%が1つ以上の慢性疾患をもち、6.3%が多疾患併存だった。慢性疾患のうち、妊娠前のやせが 15.6%と最も多く認められ、パートナーからの家庭内暴力が 13.0%、妊娠前の肥満が 10.9%と続いた。母親の多疾患併存は早産、低出生体重児、SGA のリスクと関連した。また、母親の慢性疾患数が増えるほど、早産、低出生体重児、SGA のリスクが増加する傾向が認められた。

考察(研究の限界を含める):

日本における多疾患併存の妊婦の割合は 6.3%であり、この結果は先行研究と比べて低い割合であった。母親の多疾患併存と周産期予後についての先行研究は少なく情報が限られていたが、本研究の結果から、母親の多疾患併存が早産、低出生体重児、SGA のリスクを増加させることがわかった。しかし、妊婦における慢性疾患の定義は世界的に確立しておらず、また、慢性疾患の組み合わせによる影響も十分に検討できていない。したがって、慢性疾患の定義や慢性疾患の組み合わせが変わることによって、早産や低出生体重児、SGA に対するリスクも変わる可能性を考慮する必要がある。

結論:

母親の多疾患併存と早産、低出生体重児、SGA が相関することが明らかになった。これらの周産期有害転帰のリスクは、慢性疾患数が増えるほど増加する傾向が認められた。妊婦の高齢化に伴い、多疾患併存の妊婦が増えることが予想されるため、本研究は妊娠を希望する多疾患併存の女性への情報提供に役立つと考えられる。